

中之郷

浄妙寺 を訪ねて！

蓮如上人が、徳川（松平）が、土井利勝が…



本堂
大屋根に

山号	稻荷山（とうかざん）
宗派	真宗大谷派
本尊	阿弥陀如来
創建年	1258年（鎌倉時代）
住職	マサヒロ 天白真央（33代目）



◆参道

◆三門（山門）… 明治23年（1890）三河一円の寄進により落成。
*本堂に、救主・阿弥陀如来、山門に教主・釈尊がいらっしゃって、
浄妙寺境内全体が大無量寿経の世界になっている。

◆本堂鬼瓦



平成13年の本堂修復屋根瓦葺き替え時に保存。

◆鐘楼堂…昭和40年建て替え。 ◆納骨堂…昭和52年落成。



9:43



各戸より分骨して納骨し、
檀家中でお守りしている。

◆本堂

◆庫裏



建て替え（平成3年1月起工。平成4年10月落成）

嘉永6年（1853）に再建された。144坪。

会の初の活動。会員が本堂に集まってきました。



皆で椅子を並べて、準備はOK。
事務局市川さんは出席チェック。

9:49



記念すべき、最初の見学訪問先とした浄妙寺。
開始にあたって山田会長から。

9:59

お話しいただけるのは、
天白義暉（ぎょう） 前住職

m(_)_m



【天白義暉前住職のお話】

昭和53年住職任命。平成19年退任。

合唱が、軍国青年からの『分岐点』 ~ 平和への願い

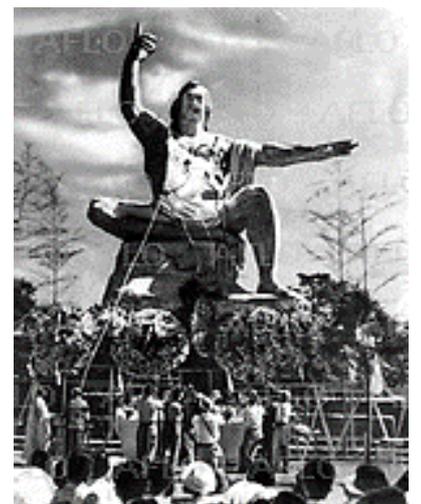
○私は昭和9年2月の生まれで、終戦の時は小学校6年生でした。その時代の教育を受けましたから、典型的な軍国青年でした。それが、大学へ行ってから変わったんです。
大学生の時、（戦没学生の悲痛な戦争体験を後の世に伝えようと彫刻家の本郷新によって制作された）「わだつみ像」を立命館大学に建立することになりました（建立日 昭和28年12月8日）。
本当は京都大学に置くことを依頼したんですが断られて立命館大学が受け入れることになりました。
その当時、私は、大谷大学で男声合唱団にいましたが、関西では3本の指に入っていたんです。
「わだつみ像」を置くにあたって、合唱をしてくれと依頼されたので、大谷大学の学長にお願いしたら許可され、私たちは佛教賛歌を合唱しました。
その後、昭和30年、被爆10周年の日に行われた、長崎での原爆の祈念像の除幕でも頼まれて佛教賛歌を合唱しました。また唄えと頼まれたんですが、汽車賃も自前です。私たちは汽車賃のためにアルバイトをしたんです。
この時は、あとで、NHKから、録音するのでもう一度スタジオで唄ってくと頼まれ、（密室で）暑いのでパンツひとつになって唄いました。そういう思い出があります。
この合唱で典型的な軍国青年が変わったんです。

参考写真

⇐ 「わだつみ像」
建立の除幕式
昭和28年12月8日

本郷新(ほんごうしん)…
戦後日本の具象彫刻を牽引した札幌生まれの彫刻家

平和祈念像除幕式⇨
昭和30年8月8日



宗教とは何か？をテーマとして ～宗教と子供の教育～

- 岡崎に帰って来て、お隣の本光寺さんの結婚式の披露宴で、来賓として挨拶した元総理の方が、教育が大切だが、教育には宗教が必要だ、子供たちの道徳を教えるにはどうしたらいいか考えてほしい、と話されていました。
宗教とは…がはっきりしないんです。この時から、宗教とは何かが、私たちのテーマになりました。
- そんなことから、6年生には、京都・奈良で仏教勉強の機会を作ったり、中学生には、夏休みに2時間お寺に集まって話を聞くというような活動をしました。
そこで、東井義雄先生が、お話をしてくれたこともありました。東井先生の「バカにはなるまい」を、卒業生全員に渡していました。
しかし、創価学会の横やりが入り、一宗教でそういうことをするのはいけない、ということで、「お寺の子供会」も「中学生への話」もなくなってしまいました。
そういう教えの場がなくなっていき、その結果か、今では子供と言うより、今の子供の母親が“草取り”ができないんです。そんな風に育ってしまっているんです。

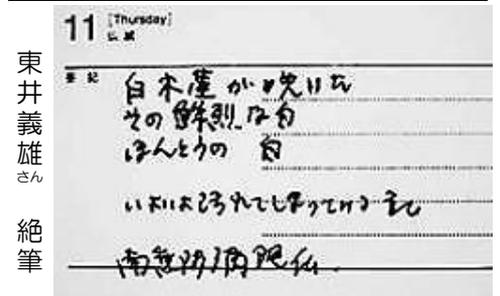
『バカにはなるまい』 東井義雄

テストでいつもよい点ばかりとっている人が
必ずしも賢い人とはいえない
そういう人のなかにも
案外 たくさん バカな人がいる

テストで どうしてもよい点のとれない人が
必ずしもバカな人とはいえない
そういう人のなかにも
たくさん
おがみたくなるような 尊い 偉い 賢い人がいる

せっかくだいたいだただ一度の
かけがえのない自分の人生
二度といただけない 大切な 自分の人生
それを自分で汚し、ダメにし
台なしの人生にしてしまう人
こんな人は
いくら頭がよくたって バカ だ

東井義雄（とういよしお）…明治45年4月9日生まれ。昭和時代の教育者。家は兵庫県の浄土真宗本願寺派東光寺。姫路師範卒。昭和7年小学校の教師となり、生活綴方(つづりかた)教育運動を実践。戦後は母校の相田小学校で、書くことによる「ほんものの教育」を展開。以後、県内の小・中学校長を歴任。多くの著作を著す。東光寺住職。平成3年4月18日死去。79歳。



浄妙寺の歴史 そして中之郷

『浄妙寺の開創』（開創＝初めて寺を開くこと。寺院開創の創立者は開基。創建＝初めて建てる）

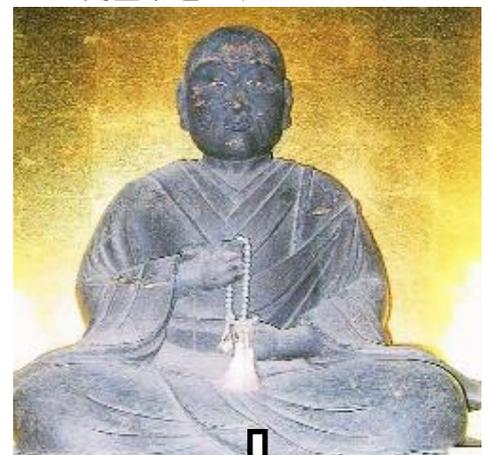
□開基； 信願房（藤井信親） 1268年没（78歳）
親鸞聖人の高弟二十四人の一人。

- 建長8年（1256）、関東高田門徒と一緒に三河に来て、各地で布教活動を行う。
- 正嘉2年（1258）、赤浜郷（鎌倉街道・矢作川の渡り東）に一道場（真宗の聞法道場）を建てる。 → 開創

【前任職のお話】

- 浄妙寺は、1258年、この地に建ちました。当時のこの地域は、矢作川のほとりにあり、交通の要衝でした。渡りでは、荷物・人から金をとっていました。真継伸彦（まつぎのぶひこ）さんによると、金をとっていたのは、どこにも所属しない無頼漢みたいな集団だったということです。そういう人たちを和田門徒といい、この中之郷にもいたと言います。
- 稻荷山（とうかざん）浄妙寺と呼ぶようになったのは三代目住職了義（1268年没 78歳）のときからです。この3代目までは、住職は関東（高田派）から来ました。

真継伸彦（まつぎのぶひこ）
小説家。昭和7年（1932）京都市生まれ。京大独文科卒。仏教を核に、信仰と政治の関係や、人間性不在の問題などを追究する。蓮如を研究。一向一揆をテーマに「鮫」で文壇デビュー。



- 中之郷は農業に適し、稲が良くできました。そういうことが稲荷山（とうかざん）という山号につながっています。中之郷は肥沃な土地で、農産物が沢山できるんですが、男は戦争にも駆り出されました。中之郷には、農業をしながら、便利なおこなことができる「人夫」さんが沢山いたんです。

◆ご由緒書きの石碑 三門の脇



太子信仰が基盤となり真宗信仰が広まる

- 韓国・慶州に仏国寺があります。仏国寺の近くにある石窟庵（阿弥陀如来の石仏）は、東向きに建てられています。日本の仏教の始まりは、聖徳太子の要請により、この仏国寺から東漸（とうぜん…東の方へ次第に伝わり広まること）が始まり、はじめに隠岐の島に伝わり、次いで、兵庫の加古川、そして奈良の法隆寺に伝わってきたということだと思われます。仏教は東に伝わるという習わしがあるのです。
- 加古川の真宗寺は、彼岸の時に本堂の裏を開けると陽がさし、阿弥陀仏に後光がさすようになります。
- 聖徳太子は、その仏教を中心として国を治めていきました。この中之郷にも、2月22日の聖徳太子のご命日を中心集まって、聖徳太子の教えを聞いていく講の組織ができ、集まって、皆で何でも相談して物事を決めるようになったのです。

その中に松平の人たちが入ってきました。農家と一緒に講に参加したのです。そのようなところに、関東から高田派の人たちが、真宗の教えを持ってきました。和田門徒の人たちが最初にその教えを受けたのです。それが、この辺が真宗が広まった（広まっていく）土地である理由です。

三河国和田の和田門徒は、高田門徒の顕智（1226-1310）や専信の門下の円善を開祖とする浄土真宗の流派。三河門徒ともいう。聖徳太子信仰が特に強いグループといわれる。越前に進出し大町門徒が分立した。

権守（国司の長官）であった円善の居所は、碧海庄和田郷であったという。和田郷は、上和田・宮地・井内・野畑・下和田・坂左右・法性寺・牧御堂・上土井・下土井・赤渋・中之郷・福嶋新田の各村。糟目神社は和田郷の郷社。

蓮如のわかりやすい布教… 真宗の興隆

- 蓮如上人は、各地を精力的に布教するとともに、親鸞聖人の教えをやさしく書かれた「御文」が伝わっていくことにより、浄土真宗を日本中に広めました。その手助けをしたのが和田門徒です。真継伸彦さんは言われます。“和田門徒の力によって日本中の山賊海賊の輩が集まって真宗が大きくなった”

作家 真継伸彦に聞く〔抜粋〕

*（筆者注；蓮如は、大谷本願寺を延暦寺に破却され、親鸞の像を抱えて近江の国へ逃れて、堅田の本福寺に身を寄せていた⇒）琵琶湖の堅田衆と言えば船乗りですが、しょっちゅう海賊行為を働いていたようです。最初の頃の蓮如教団・真宗教団は飢餓とか戦乱という限界状態で、悪を働かなければ生きていけない、そういう民衆が多くて……。

*なぜ蓮如が（越前）吉崎に行ったかということ、強調したいのは（近くの）細呂ぎの郷の荘園の別当が和田の本覚寺であったということです。これはもともと三河の国の矢作川河口付近に住んでいたワタリというもので…（筆者注；「ワタリ」＝川の民、「タイシ」＝山の民。定住しない移動の民で、太子信仰に深く関与していた）

三河の和田門徒は、白山を水源とする太平洋側、伊勢湾側の長良川沿いに行商のルートがあった。福井県へ流れる九頭竜川、石川県へ流れる手取川、富山県へ流れる庄川と、川沿いに教線をはって行く。

*北陸の地は、山の民、川の民だと、井上鋭夫先生（歴史学者・一向一揆研究の権威）が名づけられました。

*堅田の門徒も和田門徒なんです。だから、当時の（真宗の）教線を広めた最大の功労者は和田門徒だと知っておかなくてはならないと思います。いわば、（教線拡大は）農民以下にいた人たちが中心になっていたと思われます。

*蓮如上人は自身が動くだけでなく、その周辺の動きがあって、和田門徒の情報網があって、講組織を通して拡大していった。

『浄妙寺木南抄』（天白義暉 編）より

- 1500年代の戦国時代には、中之郷でも日和見でした。西の織田、東の今川の間で、その日によって味方につく相手を変えるそんな日和見的な形でいたと思います。

それが、講によって、皆で相談して決めるような形に変わりました。

- 徳川家康は、戦争のない国を作ろうとし、天下をまとめ、結果260年以上も戦争のない時代を続けてきました。家康が治めていく基本も、「蓮如の講」そして『皆で相談してものごとを決めていこう』という考え方です。

『蓮如上人と浄妙寺』

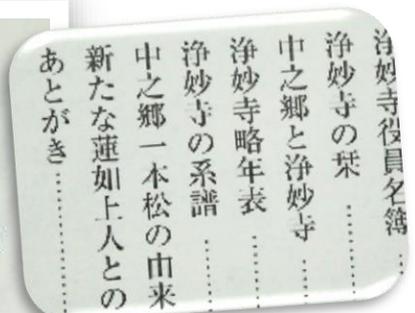
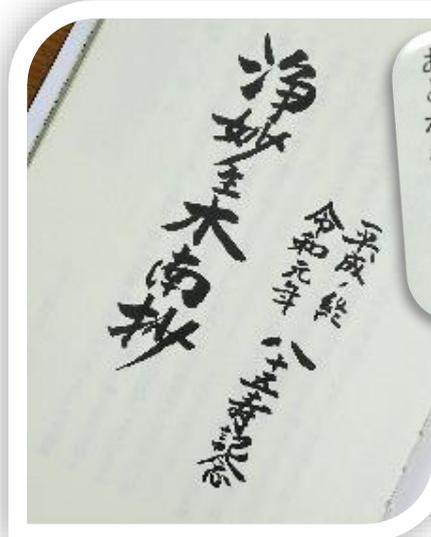
□十代住職：慶順 1498年没

- 本願寺の「蓮如上人」に師事。
(高田門徒から本願寺門徒になる)
- 上人が、土呂(土呂村・現在の福岡町)に坊社を建て(1468年)三河を教化されたとき、浄妙寺詰所を設け上人に昵近(じっきん; 慣れ親しむ)。弘法(くほう; 仏の教えを世間に広めること)のために尽くした。

蓮如上人の御寿像を授与される

(宝物写真①)

- 1491年、上人77歳のご寿像。
*寿像=生前中に描かれたものをいう。



御本をいただきました。大変勉強になります。このまとめを作るにあたって、参考にさせていただきました。

【前住職のお話】

- 浄妙寺には蓮如上人の寿像があり、今も、他所のものとは比べると、きれいに残っています。この御寿像は「やまとえ肖像」の優品と言われています。石山合戦(浄土真宗本願寺勢力と織田信長との戦い。本願寺法主の顕如が石山本願寺に籠って戦った)の最中も、この寿像がたびたび奉安(尊い物を安置すること)されました。

外部情報：“蓮如上人の肖像はほとんど絵像で、実像の古いものはないだろう。絵像はかなりあるが後の模本が多く、また当初の寿像は傷みがひどく表情不明のものや、後補の手が入り、当初の顔形が変わってしまっているものがほとんど”ということらしい。

『徳川(松平)と浄妙寺』

□十四代住職：順超 1534年没 → 順超没後 宝幢院 (妻が赤渋の地で剃髪得度した)

- 松平六代信忠の息女と結婚。
息女=松平七代清康(家康の祖父)の兄弟(家康の大伯母にあたる)
- 1534年、清洲城主織田信秀征伐に、長男超義とともに出陣。父子共に戦死。
- 次男勝奥が幼少のため、妻が剃髪得度をして、宝幢院となり寺を継ぐ。

天白(現在の上和田町南天白)に本堂を建てる

- 宝幢院は、天白の地に草庵を結んだ。
- 天文15年(1546)、松平広忠(家康の父・宝幢院の甥)から、上和田天白の地を寄進される。のちに、岡崎奉行の連署による、“広忠・元康(のちの家康)が天白の地750石を末代寄進する”という安堵状を受ける。(宝物写真②③)
- 天白(現在の上和田南天白)に七堂伽藍を造営して浄妙寺を再興。これを天白殿(浄妙寺天白殿)と呼んだ。姓は、藤井姓から「天白」姓になる。

「三つ葉葵」の紋も許可

- 同時に、浄妙寺の紋も三つ葉葵の紋を使うことが許可された。



□十五代住職；勝奥 1612年没

- 永禄6年（1563）秋～永禄7年（1564）2月28日に、三河一向一揆。勝奥は、松平家と姻戚関係にありながら、一向宗として敵対して戦った。真宗門徒側は一揆に敗れ、寺は国外追放、宗門は禁制になったが、浄妙寺は縁故によって追放は免れた。
- 勝奥は、一代僧衣をまとわず、俗形のままであった。

天白より、中之郷(現在地)に移転

- 慶長8年（1603）と12年（1607）の、矢作川の洪水により、堂宇・什物・記録など流出。現在地中之郷に移転した。

□十六代住職；超意 1661年没

- 1647年に、13代門主・宣如上人から、直筆の六字名号と、内陣地の寺格を受ける。（寺格；各教団ごとに定めた寺院の格式）

□二十六代住職；義肇 1882年没

- 嘉永6年（1853）「本堂」再建 ⇒ 現本堂（築166年、平成13年に修復を行っている） 11間四面・144坪。
- 愛知県懲役場教誨師（きょうかいし）第1号。尾張三河で有名。「輪燈はずしの白衣」と言われた。（白衣は色がつくのでなかなか着られない）



【前住職のお話】

- 本堂は建ってから150年を超えています。間口は3間です。近くには間口3.5間の寺もあり、これは大きいですが3間は普通です。（3間≒5.45m）昔は沢山のお参りがありました。油がこぼれてしまうので、ご輪灯を外しておかなければいけませんでした。

□三十二代住職；義暉

- 昭和53年（1977）～平成19年（2007）住職30年。
- 平成3年2月22日、「土井楠（どいくす）」が、岡崎市の『ふるさとの名木』に指定される。
* 樹齢400年, 樹高22.5m, 幹回り3.4m, 根回り4.4m, 枝張り22.0m



◆「土井楠」

◆ 土井利勝 母の墓



【前住職のお話】

- 岡崎市の『ふるさとの名木』に指定されているクスノキが、お墓の中にありますが、これは「土井楠」と名付けられています。徳川三代将軍家光の大老になった土井利勝の母は隣町土井町の出身で、この寺に小さい時から来ていて、この寺で亡くなったんです。玉等院と言われるのですが、そんなことから、墓はこの寺にあるんです。楠木は、その墓木として植えられたものが、今、大木になっているんです。

- 玉等院の亡くなられたのは1605年ですから、400年を超えていると思われます。
- 土井氏は、子孫が今も関東の古河市にいます。土井利勝は古河の大名になって、大老にもなりました。家光を3代目にしたことで徳川が安泰になったんです。家光が将軍になり安定した体制を作り、長い平和な時代の基盤をつくりあげることに、利勝が力を発揮し、家光を助け支えたのです。そういうこと言えば、徳川安泰の礎をつくったのは、利勝の母だとも言えます。
- 土井町のお宮(社口司社)の入口に土井利勝の記念碑が建っています。土井家の菩提寺は古河市にありますが、浄土宗です。徳川の政策で、正五位以上になると真宗から浄土宗に転派することができたんです。

参考



岡崎観光文化百選

土井氏一族の発祥地

○私の雅号（本名以外につける風雅な名のこと）は「木南」です。叔父は木端（こっば）でした。木南と雅号したのは、名前が難しい「義暉」ですので、簡単にただけです。木の南を一字にすると楠になります。お気づきのように「土井楠」にちなんでいます。

お話し終わって

『宝物（ほうもつ）』を見せていただく前に、Q&A タイム！

質問：浄妙寺は、額田とか山の方にも檀家が多いですが、これは家康についていったからなのですか？

回答：昔は寺が少なかったからでしょう。日本の人口も4000万人くらいでしたし、歴史の古い寺だから広い地域に檀家があった。足助とかまでに檀家がありました。岡崎の医者1号だった秦梨の蜂須賀さんも檀家でしたよ。

宝物見聞

本堂から、普段は書庫にある宝物を並べておいていただいた茶室へ…



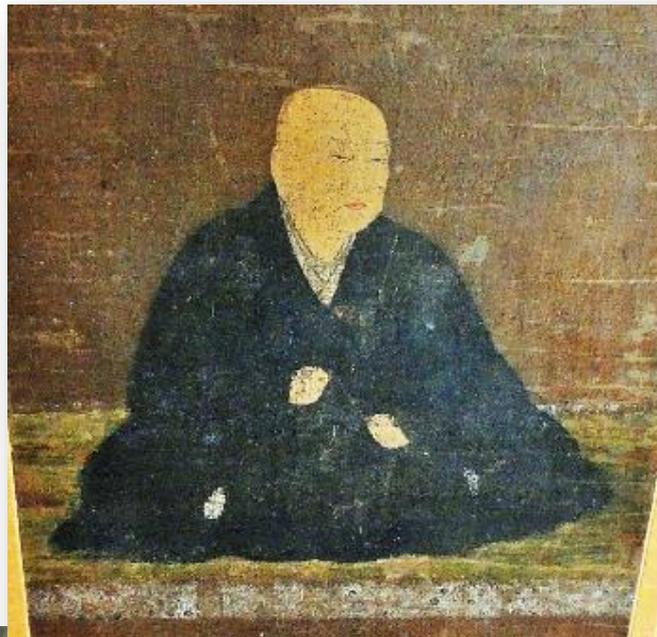
11:02



〈宝物写真 ①〉

■蓮如上人御寿像

延徳3年（1491）77歳 自画像



大谷本願寺釋蓮如

のこ真筆

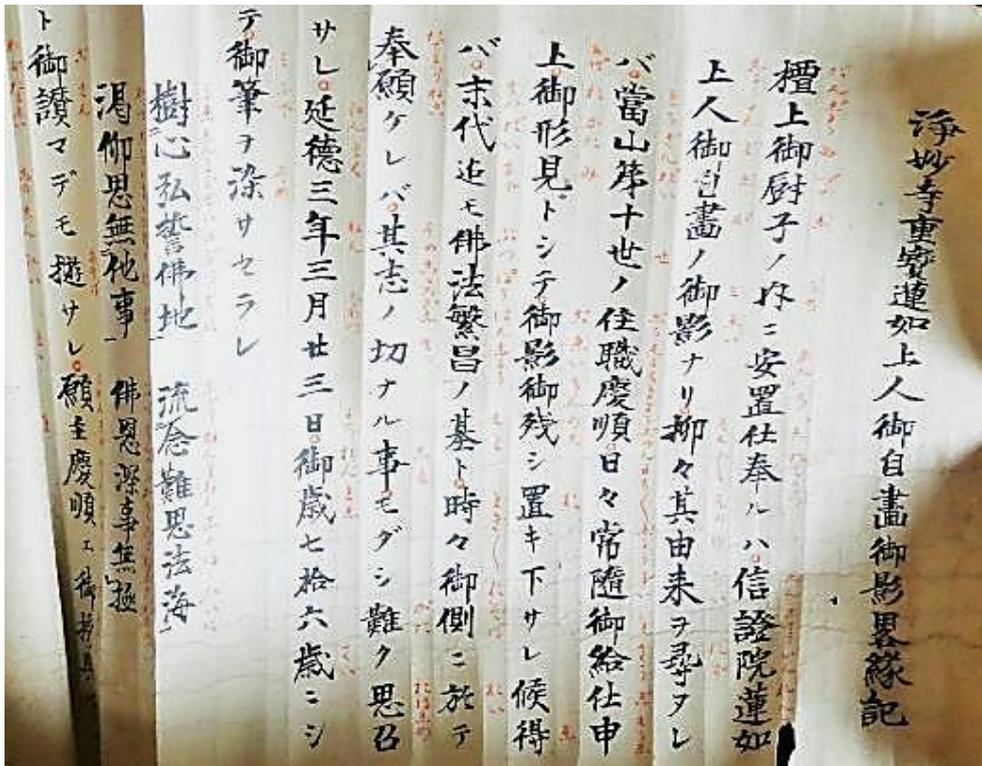
讚

樹	流	喝	仏
心	念	恩	深
弘	難	思	無
誓	思	窮	尽
仏	法	事	
地	海		

讚とは…仏徳をたたえる言葉

掛け軸の上の方に書かれています。

蓮如上人御自画御影 由緒書き



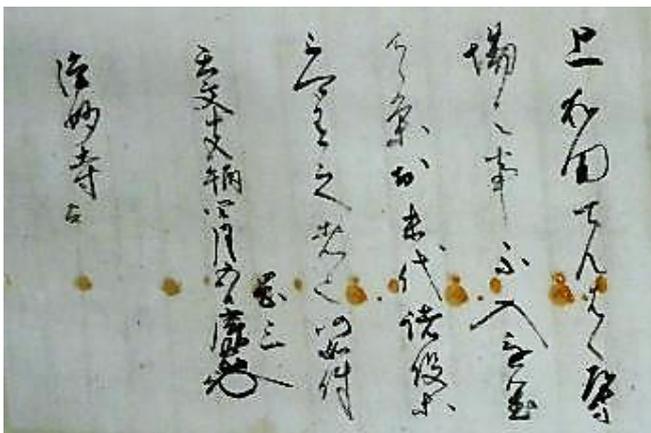
曾我量深先生の書

曾我量深（そがりょうじん）
 明治～昭和期に活躍した真宗大谷派僧侶、仏教思想家。真宗大谷派講師、大谷大学学長。近代仏教思想史の展開上、大きな足跡を残した。

<宝物写真 ②>

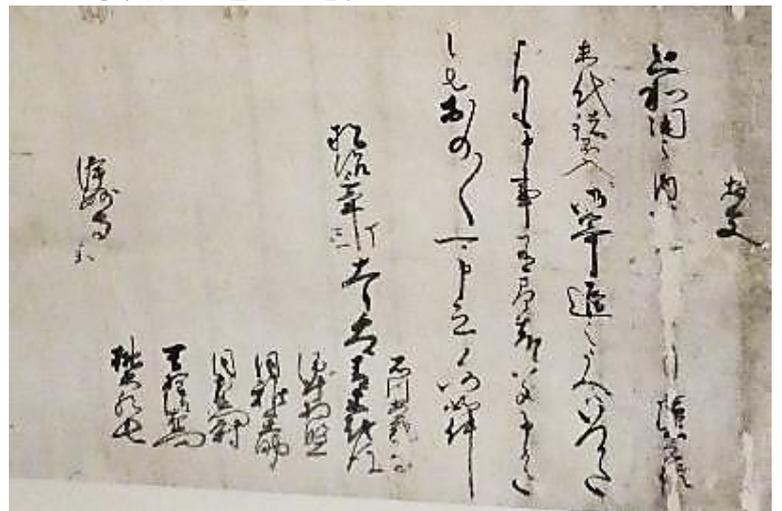
■松平広忠 安堵状

上和田天白の地を
 末代寄進



<宝物写真 ③>

■岡崎奉行人7名の安堵状



浄妙寺
 上和田てんはく導
 場之事 不入進置
 候之条 於末代諸役才
 不可有之者也 仍如件
 天文十五 午丙 四月五日
 岡三

浄妙寺
 参

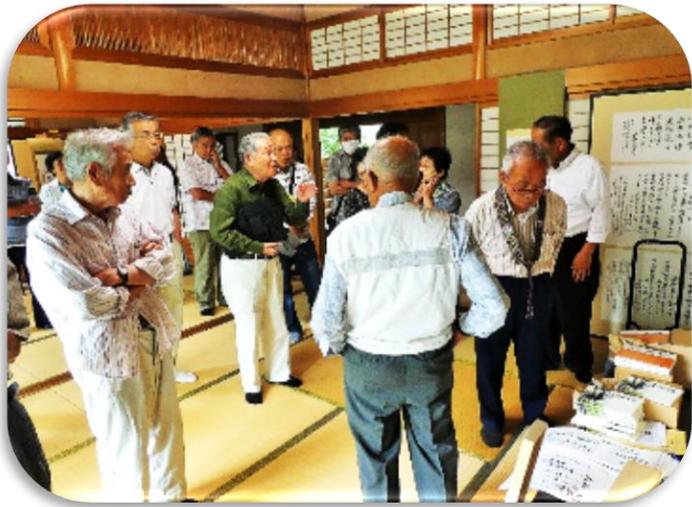
上和田之内？？？事 広忠・元康
 末代諸不入 御寄進之うへハ いつかた
 よりも申事有間敷候 若申かた候者
 おのく可申立候 仍如件

←てんはく之

弘治三年即十一月十一日
 石川安芸守
 青木越後
 酒井将監
 同雅楽助
 同左衛門尉
 天野清右衛門
 榊原孫七

花押
 廣忠

天白殿の位置は、「エル
 エルトOWN」の南、中
 央交通社の西あたり



宝物見学中の雑談・情報交換も盛んでした。

- *浄妙寺の住職さんの姓は前は“藤井”ですよ。それが“天白”になった。→信願房が藤井だったので以前は藤井だった。
- *鎌倉五山に浄妙寺があり、山号も稲荷山ですが、ここに阿弥陀如来の絵があるが見せてくれない。
- *土呂の蓮如のお寺の本宗寺（ほんしゅうじ）は今ないね。→美合に行ったんだよ。今もある。
- *碧南の応仁寺には派（本願寺とか大谷とか）がない。

応仁寺（碧南）
住職、寺族、寺男、留守番、門徒がない。
「この寺は、村持ちの寺で、昔から住職はいない。お宮さんのように、村全体の人たちでお守りする寺」だそうです。

などなど…

◆お庭（中庭）もきれいに整備されています。



お疲れ様でした！



課外研修

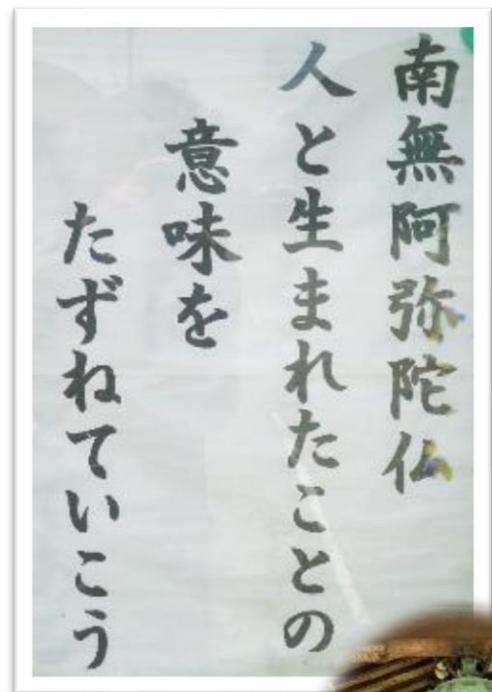
◆宝篋印塔の墓
宝幢院（十五代勝奥の母・松平信忠の娘）の墓



三河一向一揆で、真宗門徒側は一揆に破れ、寺は国外追放、宗門は禁制になった。宝幢院は宗門のため、その追放・禁制を解くよう、駿府の家康に懇願した。
その願いがいれられて、387カ寺が復歸した。
浄妙寺（縁故により追放されず）や宗門再興の恩人として、以前は、本堂裏の墓は、玉垣に囲まれた朱の廟堂の中にあつた。



宝幢院が見ている楠（土井楠）



皆、まじめに“勉強”できました。次回は「法性寺」です。

